



～ 長生郡市合併協議の検証とこれからの一宮町 ～

日時 10月28日(日) 午後2時～4時半

(午後1時半 開場)

場所 一宮町 中央公民館 大会議室

内容 第1部: 今回の合併協議を振り返って

— 近藤 直 町長に ご講演いただきます。

第2部: これからの一宮町のまちづくり

— 初村 尤而氏(大阪自治体問題研究所理事)による一宮町の
財政診断 と 住民の視点からの新たなまちづくりへの提案

※合併協議が休止となった今、一宮町はどう進むべきでしょうか？

「未来の上総一宮をつくる会」ではこれからの新たなまちづくりを
皆さんと一緒に考えていきたいと思います。是非 ご来場下さい。

主催: 「未来の上総一宮をつくる会」(代表 馬淵 昌也)

お問い合わせ: 馬淵昌也 (0475-42-4211) 藤乗一由 (0475-42-6068)

第一回 みんなで考えよう 一宮の未来

～ 長生郡市合併協議の検証とこれからの一宮町 ～

日時 10月28日(日) 午後2時～4時半 (午後1時半 開場)

場所 一宮町 中央公民館 大会議室

内容 第1部【講演】 近藤 直 町長

【報告】「私たちが見た今回の合併協議」馬淵昌也/玉川孫一郎

第2部【講演】 初村 尤而氏(大阪自治体問題研究所理事)

「一宮町のまちづくりへ ～財政から見た話題提供～」

皆さまのご参加をお待ちしております！

— ご質問・ご意見をお寄せ下さい。 —

当日は時間の関係で、ご来場の皆さまから直接ご質問を頂戴することができません。大変申し訳ございませんが、ご講演くださる初村尤而氏、あるいは当会に対して、合併問題やこれからの一宮の町づくりに対してご意見・ご質問がおありの方は、あらかじめ郵送・FAXでお送りいただくか、下記ご意見回収箱のほうにお願いいたします。(メール: miraino1nomiya@yahoo.co.jp でも受け付けております。)

当日とりあげてほしい ご質問・ご意見・まちづくりへのご提案：

.....
.....
.....
.....
.....

ご住所：

お名前：

電話：

(差し支えなければ)

馬淵：一宮 3604-1
(42-4211)



藤乗：一宮 2933
(42-6068)

ご挨拶

歴史の香り漂う町「一宮」

秋も深まりつつありますが、皆様お元気で過ごしてのことと存じます。

一宮町に初めて参りました折りに、町を歩くと玉前神社や多くの寺院もあり、鎌倉を思わせるようなたたずまいを感じたものです。しかも、田畑や里山の豊かさは鎌倉にも無いもので、私の生まれ育ったかつての、今は見る影もない戸塚を想い起こさせるものでした。更には海も川も揃ったこの豊かな環境が都心に至近の位置にあり、かつては文人著名人の集う場となっていたことを聞くにつけ、益々この町が好きになり転居いたしました。こちらへ住んで3年半、現在私は、この交通の便の恩恵に浴し、教鞭をとる学習院大学へと通っております。

そして、地元多くの皆様と一宮の良さを語る中で、多くの可能性を持つ一宮を更に素晴らしいところにするお手伝いをさせて頂きたいと考えているに至った次第です。

署名のご協力を頂いて

住民投票条例は、地方自治法に基づいてそれを制定することが保証されておりますが、私も「未来の上総一宮をつくる会」では、町の存続等の極めて重大な問題については、首長・議会の最終的判断の前に、是非とも住民投票によって、住民の意思の確認をして頂きたいと考え、これまで活動してまいりました。そこでは、一貫して、無闇に合併を否定するという立場ではなく、公正で透明性のある住民のための協議という点を申し述べてまいりました。

住民投票条例制定についての要望提出の折には、多くの皆様よりご賛同のご署名を頂戴し、また、その前後には、わたくしどもの進むべき方向性について多くの貴重なご意見をお寄せ頂きました。まことにありがとうございます。会を代表して深く御礼申し上げます。

住民も負担し参加する町づくり

さて、この度の合併協議はひと段落致しましたが、昨今の合併談義の背景にあります、国の深刻な財政難に変わりはありません、地方へ配分される財源は今後とも長期的には縮小してゆくこととされます。そうした状況の中で、数年後にはまた一宮町を含めた合併協議が再燃する可能性も高いと思います。その際に、今回の合併協議を教訓に、少なくとも不本意な形で合併という憂き目を見ないためには、現在の一宮町の枠組みのもとで、自前の財源を増強し、国の補助が縮小しても補える財政的体力をつける必要があるでしょう。

このためには、行財政改革・情報公開・住民参加の徹底による、行政・議会・住民の一体となった取組が必要となると考えます。そうした中で、一宮町が潜在的に有する資源の掘り起こしと活用、外部への発信ということがまずなされるべき事柄ではないでしょうか。そして、この際の住民参加とは、行政が適宜ビッグアップした少数の住民が関わるのではなく、住民の生活と町のゆくえに関心をもちつづけての方々が参加できる形のものでなくてはならないと思います。そうしてこそはじめて、一宮の特性に即した、中長期的に持続可能で実効性あるプランが立ち上がると思えます。もちろん、そこでは、住民自身が積極的に手足を動かすことが是非とも必要になります。そして、同時に、様々な施策における他市町村との連携も重要になってくるでしょう。

合併騒動(?)が終わったのだから、もう住民運動は必要ないとお考えの方もいらっしゃるかと存じます。しかし、今回の合併協議に関わることを通じて、私どもは、平素よりの住民の自覚的自治活動が、住みよい地域づくりには最も必要であると認識させられました。そうした観点から、今後とも、真に幅広い住民のためのまちづくりとはどういうものであるのか、より多くの皆様と一緒に考えさせて頂き、提案してゆきたいと存じます。どうぞわたくしどもの考えにご理解・ご賛同を頂き、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

未来の上総一宮をつくる会

代表 馬淵 昌也